私(元俺)は安らかに眠りたかったのに!!

煌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
私（元俺）は安らかに眠りたかったのに！！

【Ｎコード】
Ｎ５４９２Ｘ

【作者名】
煌

【あらすじ】
王からの任務でドラゴン討伐を受けそのドラゴンに殺されたはずなのに気がつくと身体が小さくなってて…
どうやら俺転生したみたい
不定期更新です

死から始まる物語（前書き）

処女作です
誤字脱字その他諸々あると思いますが、
大目に見てくださるととてもありがたいです
誤字脱字はどんどんご指摘ください

死から始まる物語

目の前にはドラゴンの大きくあいた口とそこに綺麗に等感覚で並んだ白く光る鋭い牙
それがすごくゆっくり俺（死にかけてるから自己紹介は必要ないと思う）に向かって来ている
これならよけれるんじゃね？と思い身体を動かそうとするが身体もスローモーションでしか動かない
そうか～死ぬ前には時間が長く感じられっるって言うけど本当だったのか～
ドラゴンの後ろにはこちらに手を延ばし今にも走り出そうとしている2人の弟子たちが見える
弟子たちにはこれからどうしなさいとかいってあるからまあ良いや
まあ、平民の俺が王宮魔導士になって、
その上そこそこ良い位に付けただけでも良い人生だったと言えるよなうん、良い人生だった
そう言って自分の身体をみるともうドラゴンの牙が身体の半分を貫いていた
これでもう思い残すことはもうないな
　あ、あともう一つ
死後は安らかに眠れますように
　そんなことを願った次の瞬間

視界のはしから赤黒いシミが広がっていき…

彼が最期に聞いたのは自分の身体がドラゴンに噛み切られ血が噴き出す音だった

俺は転生したみたい

オギャーオギャー
と生まれたばかりの赤ちゃんの泣き声が家中に響き渡った

「おめでとうございます、
元気な女の子ですよ」
お産婆さんの報告で母親が笑顔になる

「お名前は何になさるんですか？」

そんな質問に母親は生まれたばかりの赤ちゃんに言い聞かせる様に言った

「ミラ…ミラ・エレメリアそれが貴方の名前よ」

母親がミラを抱きしめ
「ミラ…」
とつぶやくと生まれたばかりのまだ目もあいてないミラが一瞬微笑んでいる様に見えた

俺は混乱していた

俺は確かにドラゴンにかみ殺されたはずなのに気がつくと柔らかいフカフカなベットで寝させられていた

しかも、身体は縮んで赤ちゃん見たい…

冷静になってよく考えみる…

縮んだ身体、一度死んだ記憶
見覚えの無い部屋…

うん、どうやら俺転生したみたい

状況的に考えてそれしかないよね！

あと、さっきからメイドや執事が俺のことお嬢様ってよぶんだけど！？

そう言えばあれの感覚がない！？
と言うことはもしかして…

俺は一度死んで転生したみたいです
しかも、男だった俺が女になって…

せめて転生するなら男にしてくれよぉぉぉ。・。。・（＞＿＜）・。。・。

夢の中で

目が覚めるとそこは透明な空間だった。

は？透明？何それw

とか思った人いるかもしれない

けど透明なのだ透明以外の何色とも表現できない

立っているところはあるのにその色が見えない

見渡すと遠くなるほど、黒に近づくけど、周りの空間に色は無い

この空間で色が有るのは自分の身体だけだ

「ここはどこだ？

って言うか、さっき俺赤ん坊として生まれたばかりじゃ無かったっけ？」

「それは私が説明するわ」

声が聞こえたので、振り返ってみると、さっきまで居なかったはずの色がついてる物があった

そこには子供がいた

１０歳ぐらいの美少女みたいな容姿、１４０センチに満たないであろう身長、うん、子供だ

「子供だ」

そんな風に言ってしまうとそれから否定の言葉が飛んで来た

「子供って言うな！！これでも１００年は生きているんだよ！！」

「…ババア？」

「ババアじゃ無いわ！！これでも神族では若い方だ」

「神族？
何君神様なの？」

「そう、私の名前は女神スフィア「え、スフィアってあのスフィア？」」

ちなみのスフィアとは俺が元居た世界（魔法もスキルもダンジョンも幻獣も超能力もある何でもありな世界だ）で最上位の女神の名前だった。

もしそのスフィアだったら、俺はすごい物と会ってるってｋ「の娘のフィアよ」

「……チッ、娘か面白くねぇ」

「チッって何チッって！！
だいたいまだ１００歳だって言ってるのに、そんな位の高い神な訳無いでしょ」

あ、よく考えればそうだった
まあ、どうでもいいか

「で、ここはどこで何で俺はここに呼ばれたのか説明しろ」

口調が荒いのは気のせいにしといてくれ

「自分の間違えを全力でスルーしやがったわねこいつ
まあ、いいか
とりあえず、ここはどこかと言うと、ここは君の夢の中よ」

「夢の中？」

「そう、まあ神だから夢で現れるぐらい普通でしょ
それで次だけど、何でここに呼ばれたかと言うとね、まず君に謝らなくちゃいけないの」

「はぁ？謝るって何を？」

「君、前世の記憶持っちゃったまま転生したでしょ、そのこと
あれなんだけどね、実は神の一人が面白半分でやっちゃったことなの、まあその神は今頃転生してるだろうけど、普通の人として」

「そうか、じゃあさっさとこの記憶消して戻してくれ」

「ごめんね、それはできないの
記憶って言うのはね、魂に刻み込まれてる訳なのよ。
それで魂に刻みこまれている記憶は本来輪廻の輪でしか消せないの。
それを神の力で無理やり消そうとすると、魂が一緒に消えちゃうの、
だから記憶を消すのは無理なの」

「まじかよ」

「まじよ。
だからこそ、こうやって謝罪に来たんじゃないの。
まあ、謝られただけじゃ納得できる訳無いから転生した貴方にいくつか特典をあげるわ」

「え、どんなの？」

「それは貴方多分明日そこらへんのこと調べられるだろうから
その時のお楽しみで」

「明日が楽しみだな」

「あと、いくらオトコノコの記憶を持ってるからって、オイタはほどほどにね
じゃあ、また夢の中に遊びにくるかもしれないけど」

フィアがそう言った瞬間視界がだんだん狭くなってって最期に見えたのは元気に手をふるフィアの姿だった

そう言えば今考えれば、神様はこう言ってるだよね、

いくつか能力プレゼントするから、男に記憶持ったまま女として生きろ

そりゃ無いっすよ神様ぁ〜。・。。・（＞＿＜）・。。・。

チート

神様に夢の中で謝罪されてから目が覚めると見知らぬ男性が俺の顔を覗き込んでいた

「あぅ！？」

「誰！？」と言おうとしたのだが上手く声が出ない

「あら、起きたみたいね」

後ろから母親の顔（かなり美人だ）がのぞく

「そうようだな」

「ミラ、この人が貴方のお父さんよ」

え、まじですかこの人が俺の父親？

うん、とてもかっこいいです

それ以外には特に気になることはｎ…ちょっと待って何でこの人犬っぽい耳があるの？

え、てことはこの人獣人？

そんなことを考えていたら母親の方が俺を抱きかかえた

「じゃあ、そろそろ検査にいきましょうね」

検査？何の？正直ちょっと怖い

すると、父親が答えを教えてくれる

「検査って言っても、痛い物とかじゃないから安心しろよー
ちょっとお前の力を見るだけだからな」

そうか、それならいいや、大人しく受けよう

母親はおれを抱えて歩いていく
そして今気がついたこの家デケェェェ
だって廊下の長さやべえもん
軽く２００メートルはあるんじゃねえかこれ

これだけ家広いってことは、貴族かなんかなのかな

俺が家の大きさで驚いている間に目的地についたようだ
扉を開けて部屋の中にはいるとそこには、四角い石があった
母親が俺の手を四角い石に触れさせる

それだけ、それだけでよかった
いきなり石が輝き俺の身体から何かが抜けていき、石の上でカード状の何かになった

カードが俺の身体の上まで来て俺の身体に入っていった

そしてまた母親は俺の手を四角い石に触れさせた

すると石の上に何やら文字列が現れた

意を決してそれをみるとこんなことが書いてあった

ミラのステータス

HP：3

MP：176

atk：5

def：4

matk：145

mdef：97

luk：777

ミラの持つ加護

魔術の神の加護

知識の神の加護

力の神の加護

防御の神の加護

幸運の大神の加護

創造の神の加護

ミラの持つ称号

成長＋＋＋＋＋

神に愛されし者

使役者（テイマー）

創造主（クリエイター）

ミラの持つスキル

多重詠唱

無詠唱

使役（テイミング）
創造（クリエイト）
肉体変化（メタモルフォーゼ）

……俺、マジＴＵＥＥＥＥＥ！！

母親の顔をみると、口があいたままふさがらないと言う様子です

あのチート能力発覚から3日たった
今日は朝からお昼寝タイムだぜ

昼すぎたくらいに父親が来た
仕事があるらしく、仕事前に俺の顔をみに来たらしい

「じゃあ、いってくる」

そう言って部屋を出て行った

手を伸ばすと何やら紙の感触がした

新聞だった

新聞であそんでるふりしてこうやって新聞紙を読んでいると
一つの記事が目に付いた

『この国の為にドラゴンと戦い命を落とした大魔導士〇〇、

彼の死から約一年』

俺？しかも一年後？

結果だけを言おう

ここは俺が前いた世界と同じでやっぱり俺は強かった

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5492x/

私(元俺)は安らかに眠りたかったのに!!

2011年10月19日03時09分発行